

アレルギー検査を受けられた方へ



アレルギー検査から分かること

アレルギーとは、通常は身体に害のない食べ物やホコリ・花粉などに過剰反応してしまう免疫反応の一つです。アレルギーを引き起こす原因物質をアレルゲンと言い、私たちの身体ではアレルゲンごとに特有の「IgE」という抗体が産生されます。アレルギー検査で血液中にあるIgE量を測定することで、あなたのアレルギー症状を引き起こしている**可能性**のあるアレルゲンが分かります。

アレルギー検査結果報告書の見方

今回あなたが受けたアレルギー検査では、IgE量をIndex値として表しています。

Index値に応じて0-6の7段階のクラスに分類します。クラス0を陰性、クラス2以上を陽性と判定します。クラス1は疑陽性で陽性とは判定されない程度のIgEが存在しています。クラスが高い方がIgE量が多いことを示しています。

アレルギー検査結果報告書(例)

今回検査したアレルゲン名

アレルゲンに対するIgE量 Index値/クラス

アレルゲン名	Index値	クラス	クラス(判定域)							
			0	1	2	3	4	5	6	
ハウスダスト1	0.27 未満	0	★							
ヤケヒョウヒダニ	0.27 未満	0	★							
スギ	0.27	1	★	★						
ヒノキ	0.49	1	★	★★★★★						
ハンキ(風)	0.50	2	★	★★★★★	★					
シラカンバ(風)	1.79	2	★	★★★★★	★★★★★					
カモガヤ	1.80	3	★	★★★★★	★★★★★	★				
オオアワガエリ	17.35	5	★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★			
ワサビ										

クラス2以上が陽性

Index値をもとにクラスへ分類

Index値	クラス	判定
0.27 未満	0	陰性
0.27 以上 - 0.50 未満	1	疑陽性
0.50 以上 - 1.80 未満	2	陽性
1.80 以上 - 7.05 未満	3	
7.05 以上 - 17.35 未満	4	
17.35 以上 - 29.31 未満	5	
29.31 以上	6	

陽性と判定された項目について

IgEが産生されており、Index値やクラスの高い方が症状の発現する確率が高いものの、必ずしも症状が発現するとは限りません。

アレルギーの原因は血液検査の結果や臨床症状などに基づいて医師が総合的に診断します。今回のアレルギー検査の結果から自己判断せず、アレルギー科、内科、呼吸器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科などに属するアレルギー専門医を受診してください。

陰性と判定された項目について

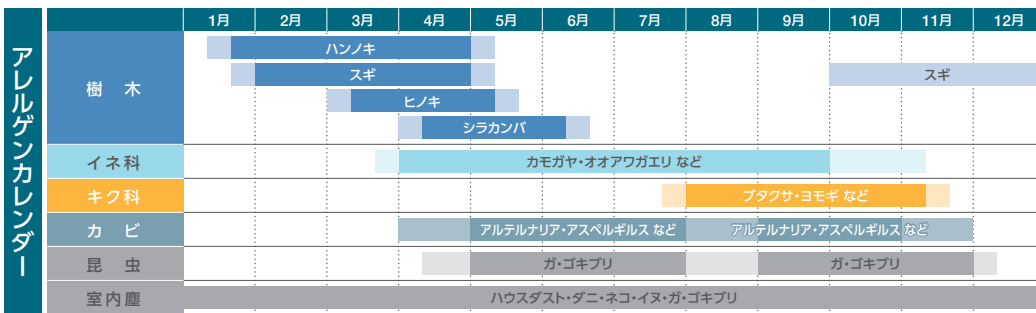
IgEは産生されていない、あるいは産生されていてもごく微量と考えられますが、中には検査結果が陰性でもそのアレルゲンによって症状が発現することがあります。また、以前陽性と判定されていても、長期間回避することで陰性になることもあります。

陰性と判定されても、アレルギー症状がある場合は、アレルギー科、内科、呼吸器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科などに属するアレルギー専門医を受診してください。

今回検査した「吸入系」「その他」アレルゲン

「吸入系」「その他」アレルゲンはぜんそく・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎／結膜炎の原因・悪化に関与します。アレルゲンを回避することは、アレルギー症状を誘発させない基本的な治療の一つです。

<h3>春の花粉</h3> <div> <p>スギ 本州、四国、九州に自生 数十Km離れていても注意が必要</p> <p>ヒノキ 本州、四国、九州に自生 数十Km離れていても注意が必要</p> </div>	<h3>夏の花</h3> <div> <p>カモガヤ 全国の道端や河川敷などに自生 近づかないことで回避可能</p> <p>オオアワガエリ 全国の道端や河川敷などに自生 近づかないことで回避可能</p> </div>	<h3>屋内アレルゲン</h3> <div> <p>ダニ/ハウスダスト 梅雨から夏に増殖 特に秋は死骸やフンが増加</p> <p>ゴキブリ 夏に繁殖 ただし熱源のある場所では一年中繁殖</p> </div>	<h3>屋内外アレルゲン</h3> <div> <p>ガ 屋外：外灯等に発生 屋内：穀類や衣類等に発生</p> </div>
<h3>秋の花</h3> <div> <p>ハンノキ 全国に自生 どちらも数十Km離れていても注意 PFAS*の原因として知られる</p> <p>シラカンバ 北海道に自生 どちらも数十Km離れていても注意 PFAS*の原因として知られる</p> </div>	<h3>秋の花</h3> <div> <p>ブタクサ 全国の道端や荒地などに自生 近づかないことで回避可能</p> <p>ヨモギ 全国の道端や荒地などに自生 近づかないことで回避可能</p> </div>	<h3>屋内アレルゲン</h3> <div> <p>ネコ 皮膚(フケ)が原因アレルゲン 飼育者の衣服に付いていることがるので注意</p> <p>イヌ 皮膚(フケ)が原因アレルゲン 飼育者の衣服に付いていることがるので注意</p> </div>	<h3>屋内外アレルゲン</h3> <div> <p>アルテルナリア 屋外：土壌等に発生 屋内：風呂場等に発生</p> <p>アスペルギルス 屋外：土壌等に発生 屋内：エアコン等に発生</p> </div>



植生および時期は地域により若干異なります

その他

カンジダ/マラセチア
皮膚に常在する菌
特にアトピー性皮膚炎と関与
ラテックス
手袋や風船などに使われる天然ゴムに注意

***PFAS (花粉-食物アレルギー症候群)**
果物や野菜、豆乳を摂取後に口・唇・喉などにイガイガ感やかゆみ、腫れがみられます。原因食物として、リンゴやキウイなどがあります。多くは花粉症に合併する食物アレルギーであり、原因食物と同時に花粉の回避も重要です。

鼻水・鼻詰まり・皮膚や目のかゆみ・ぜんそく症状などのアレルギー症状がある方は、アレルギー科、内科、呼吸器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科などに属する専門医を受診してください。症状の発現する時期を把握しておくとういでしょう。

今回検査した「食物系」アレルゲン

「食物系」アレルゲンで陽性と判定されても実際に食べてアレルギー症状がなければ、その食物を回避する必要はないことが多いです。不要な除去を防ぐためにも、医師による正確な診断を受けましょう。

<h3>特定原材料</h3> <div> <p>卵 (卵白、オボムコイド)</p> <p>乳</p> <p>小麦</p> <p>ソバ</p> <p>エビ</p> <p>カニ</p> <p>落花生 (ピーナッツ)</p> </div>	<h3>特定原材料に準ずるもの</h3> <div> <p>鶏肉</p> <p>牛肉</p> <p>豚肉</p> <p>サケ</p> <p>サバ</p> <p>大豆</p> <p>キウイ</p> <p>リンゴ</p> <p>バナナ</p> <p>ゴマ</p> </div>	<h3>その他</h3> <div> <p>米</p> <p>マグロ</p> </div>
--	--	---

食物を食べた後にじんましんや呼吸困難などのアレルギー症状がある方は、食物アレルギーの専門医を受診してください。

果物や野菜、豆乳を摂取後に口・唇・喉などにイガイガ感やかゆみ、腫れなどがある方は、食物アレルギーや皮膚科などに属するアレルギー専門医を受診してください。